

オリエンタルコンサルタンツ

地震発生時の車避難の研究（ドミンゴ）



オリエンタルコンサルタンツの青木滋取締役専務役員S C事業本部長は、「阪神や新潟などこれまでの震災は、道路、法面といった構造物関係がほとんどで、あまり深くかわることができなかった」が、今回は河川や港湾、公園など幅広い分野で貢献できたと評価する。事業促進PPPやCMR（コンストラクション・マネージャ）といった新たな事業形態にも参画、次の展開に生かせる経験とノウハウを積み重ねている。業務内容も従来の調査設計から、被災地を再生するために企業

被災地の再生へ企業誘致にも挑戦

をどのように誘致するかなど、初めて手掛けることにもチャレンジして、仕事が横に広がることも縦にも深くなっている。

東北大学などと7者で2011年10月、共同研究体のDOMINGO（ドミンゴ）をスタート。ビッグ・データを使って、地震発生時に自動車で避難する方法を研究している。「いまはプロトタイプができています。これから精度を上げ、使い方も検討する必要があります」。災害が起きた時だけでなく、日常的な活用方法も探り、適用範囲を広げる。

震災を機に、津波避難シミュレーションを自社で開発した。南海トラフの巨大地震で被害が想定される地域に展開できる。防災関係の業務は、今後も需要が見込まれることから、「避難場所をどこに設置して、どのような施設にすればいいか、といったソフト関係の業務でもお手伝いしていきたい」。震災をきっかけにエネルギーが注目を集め、山梨県の2カ所で太陽光発電事業を実施している。これと1月には、有明沿岸道路の法面で太陽光発電する事業を、佐賀県のプロポーザルで特定された。太陽光だけでなく、地熱、小水力発電もターゲットに据え、事業主体となって取り組む考えだ。